

From SORA

皆さま、こんにちは。B-GROOW(ビーグロウ)の空です。

4月になりました。新入社員のみなさんを迎えられ、フレッシュな賑わいにあふれている企業様も多いことと存じます。春の天候を表す「三月の風と四月の雨で五月の花が咲く」という言葉があります。

実は、天候についてのみならず、「雨や風といった土台や準備があってこそ美しい花が咲く」という目標達成にも通じる言葉なのです。新入社員研修や新たなチームのコミュニケーション確立の努力は先々で花を咲かせます。スピード感をもちつつ、しっかりと地に足を付け進めていきたいものです。

弊社では『ハラスメント社外相談窓口』が開設いたしました。

これからも、みなさまのお役に立てるよう、より一層の精進を重ねてまいります。

今後とも、どうぞよろしくお願いたします。



空 直美

ハラスメント社外相談窓口の設置について考える

先月のニュースレターでも取り上げましたが、多くの企業が雇用管理上のハラスメント防止措置として「各種ハラスメントの一元的な相談窓口の設置」に取り組んでいます。そこで、社外相談窓口の設置についてQ&A方式で考えます。

社外相談窓口設置におけるQ&A

Q ハラスメント社外相談窓口を設置する目的は？

A 外部相談窓口設置の目的は、法律遵守と社内的なハラスメント問題の解決という本来の目的に加え、社内での業務負担の軽減、水面下の問題のくみ上げ、広く社員の話をきいてもらう、など様々なものがあります。

自社が外部相談窓口に求めることが何かを明確にすることがとても大切です。その上で、目的に合った対応をとっている外部相談窓口を選ぶとよいでしょう。

ポイント!!



Q 社内相談窓口は利用しにくいという声をよくききますが、社外相談窓口でも同じではないでしょうか？

A 多くの社外相談窓口では、相談者のプライバシーについて細やかな配慮がなされています。また、『認定ハラスメント相談員』など専門知識をもち、傾聴スキルの高い相談員がしっかりと相談内容を聞き取るので、相談者が安心して相談することができます。

社内相談窓口を設置した場合に問題となる、窓口相談担当者の負担を軽減することができる、顕在化していないハラスメント問題をすくい上げることができる、という企業にとってのメリットも考えられます。

ポイント!!



Q ハラスメント社外相談窓口ではどのような対応を行っているのでしょうか？



A 相談受付は電話対応が主流です。また、EメールやWEBフォームなどでどの時間帯でも相談に対応している社外窓口もあります。一次的な相談の後、必要に応じて企業に対し専門機関を紹介するなどの対応をとる窓口もあるようです。



Q どのようなサービスを受けることができるのでしょうか？



A 電話やメールなどでの一次相談に加え、以下のようなサービスがあります。

- ・ハラスメント相談報告書の提出
- ・ハラスメントアンケートの実施
- ・ハラスメント防止研修の開催
- ・就業規則の変更支援 など

基本的な相談以外のサービス利用については別料金であることが多く、窓口利用料についても、従業員数に応じて・基本料金を従業員数で加算・プランごとのバック料金など、社外相談窓口によってさまざまな料金設定がされています。

ポイント!!



ハラスメント社外相談窓口を開設いたしました

弊社でも『ハラスメント社外相談窓口』を開設いたしました。詳しい内容については、ZOOMにて、30分程度のお時間をいただき、ご案内させていただきます。貴社のハラスメント防止対策にお役立ていただけましたら幸いです。(担当：久保、樺山)



周知ポスター

(文責：コンサルティング事業部 香月裕美)

DX(デジタルトランスフォーメーション)について考える

『DX(デジタルトランスフォーメーション)』という言葉を目にする機会が増えました。今回は『DX』について考えます。

DX(デジタルトランスフォーメーション)とは?

『DX(デジタルトランスフォーメーション)』とは、2004年にスウェーデンのウメオ大学のエリック・ストルターマン教授によって提唱された概念です。その内容は、「進化し続けるテクノロジーが人々の生活を豊かにしていく」というものです。「DX」という略語がよく使われるのは、英語圏で「TRANS」を略して「X」と表記することに準じているためです。

ビジネスにおけるDX

ビジネスにおけるDXは、デジタル技術を利用することで長年の課題を解決し、ビジネスモデルや働き方を大きく変える試みといえます。企業やビジネスシーンでDX化が進められ、デジタル技術を活用した便利で快適なシステムが構築されることで、社会全体がより良い環境に変化していくことにつながるでしょう。

DXを進めることで得られる成果

- 従来なかったビジネスモデルを生み出す
- 既存ビジネスのプロセスを再構築し生産性の向上、コスト削減、時間短縮をもたらす
- 業務そのものを見直し、働き方に革新をもたらす

企業へのDXの導入

令和2年の経済産業省『DXレポート2 中間取りまとめ(概要)』によると、調査対象の9割以上の企業がほぼDXに未着手であること、また、ある人事システム会社の調査によると、4割の中間管理職層が『DXについて関わりたくない』と答えていることが明らかになっています。DXの取り組みに消極的な企業が多い状況ですが、実は、事業や組織が複雑ではなく成果が出やすいという点において、中小企業のほうが大手企業よりもDXに取り組むやすいといえます。

また、コロナ禍における事業環境の変化に対応できた企業は、経営トップが率先してITインフラの整備やルールの変更等に取り組み、速やかに大きな変革を達成しています。

経営者がリーダーシップを発揮しやすい環境であることも、成果の大きな要因になります。

株式会社 B-GROOW

Mail sora@b-groow.com

HP <https://www.b-groow.com>

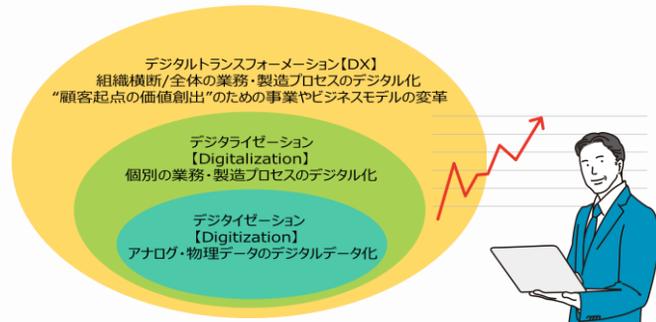
〒812-0013

福岡県福岡市博多区博多駅東2-5-28博多借成ビル9F

TEL 092-476-7300

FAX 092-476-7307

DXの進め方を図のように分けて考えると、具体的な行動をとりやすくなります。紙の書類をデータベース化する、経理や受発注などの業務を業務システムに置き換えるなどのデジタイゼーションから取り組まれるとスムーズかもしれません。



おわりに

I MD(国際経営開発研究所)が発表した「世界デジタル競争ランキング2020」において、日本は世界で27位という結果でした。また、DXはビジネスだけでなく教育現場でもICT(Information and Communication Technology=情報通信技術)の導入などで進められていますが、現場では端末を持って余しているという声も聞かれています。

『2025年の崖』という言葉をご存じでしょうか?既存システムに依存し、IT技術の進歩に追いつけなくなった場合、2025年以降から企業の競争力は崖から落ちるよう急低下し大きな経済損失を生むといわれています。今、DXについて考えてみてはいかがでしょうか。

参考: 経済産業省『DXレポート2 中間取りまとめ(概要)』
<https://www.meti.go.jp/press/2020/12/20201228004/20201228004-3.pdf?fsi=kx48g4Kd>

(文責: コンサルティング事業部 香月裕美)

B-GROOWビジネスカレッジ講座のご案内

2022年4月

4月20日(水)

『ハラスメント(窓口対応)』

講師 樺山 恭子

★開催時間は
13:30~16:30です。

お申し込みはこちら

<https://www.b-groow.com/seminar/>

編集後記

春にはさまざまな出会いがあり、期待が膨らむ一方、緊張感も高まるものです。朝出かけるときに『今日会う人はいい人だ』と唱えて出かけると、どのように接しようか、何をしてあげられるだろうか、など前向きな気持ちになれるそうですよ。

今、私たちは世界規模での大きな課題に直面しています。一人一人が他者を理解し受け入れることの大切さについて再確認し、実行していくことが求められているのではないのでしょうか。

(編集担当: 香月裕美)

